

2023年度 地域力向上委員会

委員長予定者 奥富 康雅

1. 運営方針

私には全盲の祖母がおります。物心ついた頃から目の不自由な人が身近にいたため、目の不自由な方がどんなことを望んでいるかがわかり、自然と行動ができる力が身につけていました。その能力が発揮される出来事が、仕事中に訪れました。ある時、目の不自由な方が来店された際、祖母にするような配慮を行うとお客様は自身の想定以上に喜んでいただくことができました。相手の気持ちを理解できていたことで、お客様と自身の特別な時間を過ごすことができました。

社会が成熟した現代においては、経済的な豊かさが人々の幸せであるという考え方から、持続的な心身と社会的な健康を意味する「ウェル・ビーイング」が人々の幸せには重要であるという考え方にシフトしております。実際に、日本各地で「ウェル・ビーイング」に着目したまちづくりの取り組みが行われております。人が幸せを感じることができる要素の一つとして、多様な人と繋がりを持ち、喜び合えたり、親切にし合えたり、互いに感謝し合えるような心の豊かさを感じられる人間関係を持てていることがあるとされています。そのような関係の構築には、お互いを尊重し合えることが前提にあると考えます。しかしながら、熊谷のまちづくりアンケートを見ると、普段の生活の中でお互いを尊重する意識は低いという調査結果があります。熊谷市民の多様な個性を大切にすることを高め、人と人が心の豊かさを感じ合える、人々がイキイキと健康的に生活できるまちという魅力を創出することができれば、熊谷は多くの人々にとって魅力的なまちになると考えます。

そこで本年度、地域力向上委員会では「みんなで見よう熊谷の未来」をテーマに運動を展開いたします。そのために、地域内外の様々な方々とパートナーシップを結び、多くの市民を対象に、様々な人と人との交流の中で多様な個性の存在を知ることができる事業を実施いたします。この事業を通し、人と人との交流の楽しさを実感していただき、お互いを認め合い尊重し合うことが、お互いの心の豊かさに繋がることを実感していただきます。そして、事業の様子を地域内外に発信することで、市民の多様な個性を大切にすることを高まりを、多くの人々に認知していただきます。

市民がお互いの個性を大切にしよう意識が高まった熊谷では、心の豊かさを感じ合える関係が広がっていきます。やがて全ての市民がイキイキと健康的に生活できるようになった熊谷は、様々な価値観の交流からお互いの抱える問題を解決することで、全ての人々が笑顔で暮らせるまちになると考えます。そんな熊谷には市外からも多くの人々が集い、熊谷は持続可能なまちとして発展していけると確信しております。

2. 事業計画

- (1) パートナーシップの方々との意見を交換し、協力関係を強めるためのミーティングの実施
- (2) 事業に協力していただく方々に、本年度の運動への理解を深めていただく例会の実施
- (3) 多くの市民が互いを認め合い尊重し合える事業の実施、並びに事業の様子を市内外に発信
- (4) 1年の運動の検証、報告、提案を行う例会の実施